

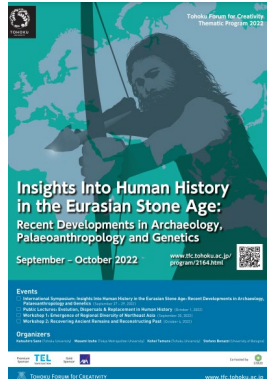


文理連携による東北アジアの新しい地域理解と課題の共有

令和4年度における活動実績・成果の概要

① 国際シンポジウムとワークショップの開催による人類史の最新な研究成果の発信

国際シンポジウム「Insights Into Human History in the Eurasian Stone Age: Recent Developments in Archaeology, Palaeoanthropology, and Genetics」(2022年9月27日-29日)、国際ワークショップ「Emergence of Regional Diversity of Northeast Asia」(2022年9月30日)、「Recovering Ancient Remains and Reconstructing Past」(2022年10月4日)を開催



② 東北アジア地域に関連する講演会やシンポジウムの実施による研究成果の還元

講演会「Confrontation and Cooperation: Soviet-Japanese Relations in Northeast Asia, 1922-1941」(2022年5月13日)、「Arctic-Asian fisheries trade: The Cases of Iceland and Japan」(2022年7月1日)、「歴史と記憶のはざまに：戦後日中関係の語り方について」(2023年2月21日、参加者数38名)、国際セミナー「ロシア先住民社会の今日的葛藤」(2023年3月4日)、シンポジウム「規範と模範—東北アジアの近代化とグローバル化の諸相」(2023年3月18日)を開催

一般市民を対象とした講演会「東北アジア研究における工学 - 子持村遺跡からウクライナ地雷への道程 -」(2023年2月18日、動画はYouTubeで公開)、シンポジウム「近代日本の感染症と新型コロナ」(2023年2月18日)を企画・開催

